

博物館だより

No.9

平成19年1月1日
 みやこ町歴史民俗博物館発行
 福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
 TEL 0930-33-4666
 FAX 0930-33-4667

友の会講演会は 1月27日(土)

博物館友の会主催の文化講演会を次のとおり開催致します。ぜひ、お集まりください。

■日時 平成19年1月27日(土) 午後1時30分～

■場所 当館研修室

■講師 別府大学 飯沼賢司氏

■演題 「石清水八幡宮別当元命と豊前国」(仮題)

芭蕉紀行と 貝あわせ展

現在、博物館友の会の自主活動グループ「沙羅の会」の皆さんによる、短冊と貝あわせの「筆遊び」作品展を開催しています。観覧料は無料です。ぜひご来館ください。

■会期 1月23日(火)まで

■場所 当館民俗コーナー

お知らせ1月の歴史講座

【漢詩文講座】
1月11日(木) 9時30分～

【古典仮名講座】
1月18日(木) 9時30分～

【古文書講座】
1月20日(土) 10時00分～

【初級古文書講座】
1月26日(金) 10時00分～

※場所はいずれも博物館研修室



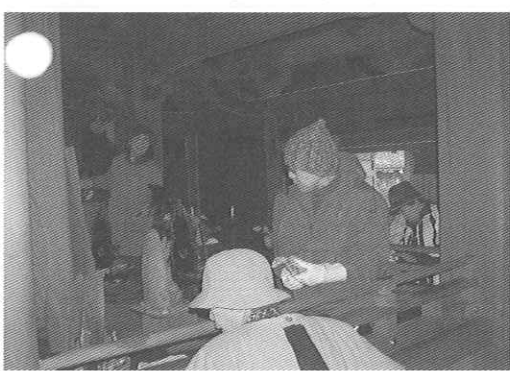
▲縄文土器作りに挑戦！(9月)

博物館deふるさと学習

博物館では2学期中、犀川中学校(1年生)と共同で「モノとワザの歴史体験」と題した体験学習事業を行いました。この事業はモノ作りや現地見学を中心とした体験学習により、ふるさとの良さを見つけようというもので、縄文ライフ体験(土器作り・まが玉作り)や原始の森・山城探検など多彩な体験学習を実施しました。



▲木簡づくりで古代の役人体験(10月)



▲三重塔すす払い

11月23日(祝)、博物館友の会史跡散策バスハイク。あいにくの雨でしたが、小倉から飯塚まで、旧長崎街道をたどりました。嘉徳劇場内部も見学。

12月2日(土)、恒例の国分寺三重塔「すす払い」実施。博物館友の会の会員を中心に23名の皆さんが三重塔一層部分の清掃をしてくださいました。



▲嘉徳劇場にて

《古文書解読コーナー》

① 奏後

② 〈ヒント〉ぜいたく

家風

③ 〈ヒント〉家の流儀・作法

零

④ 〈ヒント〉割合

利便

⑤ 〈ヒント〉もうけ

殖

〈ヒント〉ひとりぼっち

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① 奏後
- ② 家風
- ③ 零
- ④ 利便
- ⑤ 殖

みやこの「お宝(文化財)」拜見⑨

福岡県指定文化財

旧福岡県立豊津中学校講堂

思永館

〔所在地〕京都府みやこ町豊津973
 〔完成年〕一九〇二年(明治三五年)
 〔規模等〕木造、桁行約二三m、梁間約一五m、車寄付、
 棧瓦葺
 〔所有者〕福岡県(管理者・豊津高等学校)

県指定文化財「思永館」

福岡県指定文化財「思永館」は、旧制福岡県立豊津中学校(現豊津高等学校)の講堂として、明治三五年(一九〇二)に建設された木造洋風建築物です。学校建築としては県内最古の貴重な建物であることから、平成元年(一九八九)に福岡県文化財(有形文化財・建造物)に指定されました。

建物は主屋(講堂)の部分と、車寄(車に乗降するため玄関前に屋根を張り出した所)の部分からなり、主屋内部の柱には、ギリシャ古典建築様式の一つ、イオニア式の装飾が施されています。とりわけ、正面ステージのペダスタル(台座)上に建てられたイオニア式円柱は、最も視線が集まる部分だけに、とくに念を入れて、美しい姿に仕上げられています。

▲思永館の内部



「思永館」は、平成三〜四年度に保存修理工事が行なわれましたが、その際、建物内部の隠れた部分から墨書きの文字が発見されました。これにより、「思永館」の建設を請け負った大工が、現在の

久留米市に住む人であったことがなどが判明しました。
 小倉から豊津台地へ

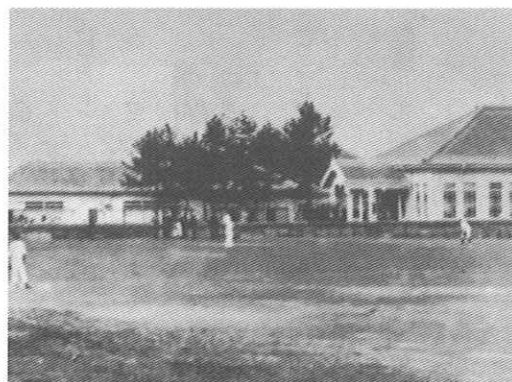
豊津高等学校の源流は、宝暦八年(一七五八)に小倉で開設された石川麟洲(小倉小笠原藩が京都より招いた学者)の塾「思永齋」、さらにそれを発展させた藩校「思永館」(講堂の名称はこれにちなむ)にありますが、現在の場所に学校が開かれたのは明治三年(一八七〇)一月のことです。慶応二年(一八六六)八月、長州戦争の際、小倉城と共に藩校思永館も焼失したため、しばらくは領内各地の寺院を仮校舎として藩校経営は続けられましたが、明治元年(一八六八)一月、藩士一〇〇余名の投票により、豊津台地に藩庁を建設することが決定し、あわせて藩校も新藩庁の近くに設けることが決まります。ただ時局

▶藩が学校建設資金を捻出することは困難なことから、京都郡行

事村(現行橋市)の豪商が校舎を建設し、藩に献上しました。そして、この新たな藩校の名称は、小倉時代の思永館ではなく、「育徳館」と名付けられたのでした。
 講堂「思永館」建設まで

しかし、明治四年(一八七二)七月の廃藩置県、さらに同年一月の改置府県と、時代が大きく移行行くなか、明治五年(一八七二)九月に育徳館の県費運営は打ち切られることになりました。以後しばらくは、学区内住民から学校費を徴収する準公立校として運営されましたが、同六年三月には校名を「育徳学校」と変えて教育内容を縮小するなど、その経営はとも困難なものでした。また、明治九年(一八七六)におきた「秋月の乱」

▲建設間もない頃の思永館(右の建物)



では育徳学校を中心に激しい戦間が行なわれ、弾丸などにより校舎が大きく損なわれたようです。
 育徳学校が県立学校となり、あわせて名称が「豊津中学校」となったのは明治十二年(一八七九)九月のことです。以後、明治二十年(一八八七)に政府の政策(一県一中学校)によって一時的に廃校となる(三四日間。ただし授業は継続)など、幾多の曲折はありましたが、県下に数少ない中学校の一つとして、各地から優秀な学生が集いました。

明治二六年(一八九三)、育徳館開校当初の建物の大半が取り壊され、新しい校舎が建設されます。それから明治三〇年代にかけて、校内施設の整備・建設が順次行なわれましたが、講堂「思永館」の建設もその一環として行なわれたものようです。

▶県指定文化財「思永館」



▶イオニア式の装飾

